

## 温泉地の旅行決定要因に関する研究

○西田集〔東京農業大学〕△上岡洋晴〔東京農業大学〕

旅行者が温泉地を選択する際の決定要因に関する先行研究はいくつかあるが、網羅的にニーズを把握しているとはいえない。そこで本研究は、温泉地を旅行する者が場所の選定にあたり、重要視する事項を明らかにすることを目的とした。

調査方法は、若年者（学生）に対してアンケート調査を行い、各指標の評価をまとめるものとする。手順としては、まず20～70歳の男女に対して、新たな要因を抽出するためのアンケートを行った。次に同年代・性別の別な集団に対して、先行研究と抽出されたアイテムを包括し、0～10点で評価するプレアンケートを行い、各項目の重要度を明らかにした。これらを基に、本調査を行う予定である。

新たなアイテムの抽出を行った結果、計56名（男性23名、女性33名）からアンケートを回収し、新たに58アイテムが候補として得られた。各アイテムを宿泊施設・観光・周辺施設・その他の4分野に分けると宿泊施設が「郷土料理」・「接客態度」等36アイテム、観光が「歴史」・「秘境」等13アイテム、周辺施設が「静かな街」・「地元の飲み屋」等4アイテム、その他に「名産品」・「癒し」等6アイテムであり、幅広い年代から回答を得たことで多様なアイテムを得ることができた。そして、この58アイテムと先行研究の18アイテムの計76アイテムを用いてプレアンケートを行ったところ、計81名（男性36名、女性45名）からアンケートを回収した。この結果、「交通の便」・「料理は量より質」等5アイテムの回答数に有意な性差が生じ、女性の方が交通と食に関するアイテムの重要度が高いことがわかった。今後は、平均点の高い「部屋の快適度」・「食事」・「宿の清潔度」等上位20アイテムを基に新たなアンケートを作成して本調査を実施し、当日はそれらも含めて報告する予定である。

## P-2

### 保育所での運動あそびの取組みに対する保育士と保護者の評価

○渡邊 真也 岡田 真平 朴 相俊 伊藤勇太〔一般財団法人身体教育医学研究所〕

上岡 洋晴〔東京農業大学地域環境科学部身体教育学研究室〕

塩崎 和男 岩田 広子 岩下 由美〔東御市健康福祉部〕

【目的】就学前の運動あそび体験を通して、子どもの心身が健やかに育まれることが期待される。行政と研究機関との連携により1年間取組んできた運動あそびについて、子どもたちと身近に接する保護者及び保育士の視点から、園児の変化、取組みへの評価を明らかにすることで、保育所での運動あそびの現状評価と課題抽出を行うことを目的とした。

【方法】長野県東御市の8つの公立保育所において、幼児の保護者414名と保育士50名を対象に、平成22年度に取り組んだ運動あそびに関する質問紙調査を行った。質問内容は、保護者・保育士の主観による園児の意識、態度、行動、生活の変化などに関する評価と、取組みの必要性などに関する保護者・保育士の立場からの評価によって構成された。

【結果・考察】園児が運動あそびに対して積極的であること、普段からもよく動いて身のこなしが上手になったこと、保護者・保育士が園児の体力面などで運動あそびの必要性を感じていること、などの項目で肯定的な評価の割合が高かった。一方、園児の落ち着き、親子のふれあい、などの項目での肯定的な評価は半数前後にとどまった。これらの結果から、運動あそびの内容や目標設定などについてさらなる検討を行う必要性が示唆された。